



## がくふ おんぶ 楽譜の音譜はどうやってできたの

### おと か ほうほう かが 音を書きとめる方法が考えられた

いくらいい歌があっても、その歌が忘れられれば消えてしまいます。教会の賛美歌も、  
新しい合唱隊がくるともう歌えませんでした。そこで、音を書きとめる方法が考えられは  
じめました。それが楽譜です。

音の高さや、音の上がり下がりがわかるていどの、簡単なものでしたが、その後、しだ  
いに改良されて、現在の音譜に近いものになったのが、16世紀から17世紀ごろです。

### ころ なか ごせんぶ のこ いろいろな試みの中で五線譜が残った

それまでには、いろいろな形の楽譜が試みられました。音の高さを表すのに、一つ一つ  
の音ではなく、決まったふしの形や文字譜のようにして表す、あるいは、線譜も1本から  
18本の線を使うということがありました。そんな中で、最後に残ったのが五線譜です。  
音の長さも、1音1音の長さを示すようになったのは後のことで、リズムの一定の形を  
示すようにできていました。

しかしこれまでの楽譜が完ぺきなものではなく、現代の作曲家もいろいろ改良を加えた  
楽譜を試みています。（監修・保岡 孝之）

